

地域の連携強化を担う未来への架け橋

五所川原車力線

津軽令和大橋開通

中泊町の国道339号とつがる市車力町の鯉ヶ沢蟹田線を結ぶ「五所川原車力線」が完成し、ついに津軽令和大橋が10月20日(火)に開通しました。

旧中里町と旧車力村は、岩木川で隔てられていますが、昭和30年代頃まで両地域は、川舟での往来による交流があったそうです。

時代が進むにつれ、自動車による移動が主となってからは、両地域の交流のためには大きく迂回する必要がある、地域住民からの要望を受け、地域間連携強化のために、県が事業に着手することになりました。

着工から19年、地域を結ぶ道路が開通したことで、両地域の中心部を直線的に往来できるようにな

り、医療や福祉、観光施設などへの移動や、地域住民の交流促進が期待されます。また、わが町にとつては、武田地区と中里地区、そして中里地域と小泊地域を往来する新たな道路でもあり、国道339号と比べて平坦で直線的な道路であることから、町民の生活利便性向上が期待されます。

安全祈願祭と開通式典は津軽令和大橋で行われ、開通式典の実行委員長を務めた濱館町長は、「ご協力のすべての皆さまに感謝申し上げます。両市町の協力的体制の構築をはじめ、津軽半島全体に波及効果をもたらすことを期待している」と式辞を述べました。

橋の命名者3人へ記念品を贈呈し、用地協力者らへ感謝状が贈ら





渡り初めをする三世代家族ら



渡り初めの様子



テープカット

れると三村知事、両市町の首長などがテープカットをし、開通を祝いました。
式典後の渡り初めには、両市町から3世代家族らが参加し、中里側から参加の長利勝夫さんは「往來が楽になるのでこの日を心待ちにしていた。89歳の父と渡り初めができてよかった」と喜びの言葉を述べました。

